

あかやま

読字英原田 銀

No. 833

2017/ 7/5

日中友好新聞

発行所
日本中国友好協会
〒110-0054 東京都千代田区千代田1-1-1

日中友好協会
岡山支部
〒700-8256
岡山市東区3-8-30 514
TEL:086(272)-3010
郵便番号1100
01250-04-3835

日中友好協会
倉敷支部
〒713-8511
倉敷市遊島中央1-8-4
(宮地方)
TEL/FAX:086(445)-2711

日中友好協会岡山支部ホームページ
<http://rzhong.biz/>
メールアドレス
rzhong86@hotmail.co.jp



日中岡山支部総会開く

— 憲法施行70周年にふさわしい運動を —

日本中国友好協会岡山支部は、6月23日、岡西公民館で2017年度総会を12人の参加で開催しました。

会は、宇野前支部長のあいさつではじまりました。そして、岡山県華僑華人総会の劉勝徳会長から心のこもった連帯のあいさつがありました。

自己紹介の後、2016年度の活動報告及び決算・監査報告が、各担当理事・監査よりありました。続いて2017年度の活動のすすめ方、予算案が提案され、拍手で承認されました。

今年度の活動のすすめ方の特徴を三点紹介します。

第一点は、憲法施行70周年にふさわしく「憲法を生かす政治」を実現するため、市民と野党の共闘を進展させ「改憲勢力の3分の2体制」を打ち破ることを強調。

第二点は、中国帰国者の現状（高齢化に伴う医療・介護など）を知ってもらうため、2018年2月に、中国 残留孤児国賠訴訟岡山訴訟終結10周年記念行事を開催。

第三点は、日中友好運動の柱の一つに「中国百科検定」を

位置づけ、2018年3月21日に開催される第四回検定の成功。

最後に7月7日の盧溝橋事件80周年の街頭宣伝に参加することを確認して終わりました。

なお、この日は18時から岡西公民館で、大西広慶応義塾大学教授の「今の中国をどう見るか」―中国脅威論を前にして―が開催され35人が参加しました。

中国人強制連行者慰霊祭へ向けて

玉野市の日比港を見下ろす高台に、観音院常光寺の鎮魂の鐘楼があります。

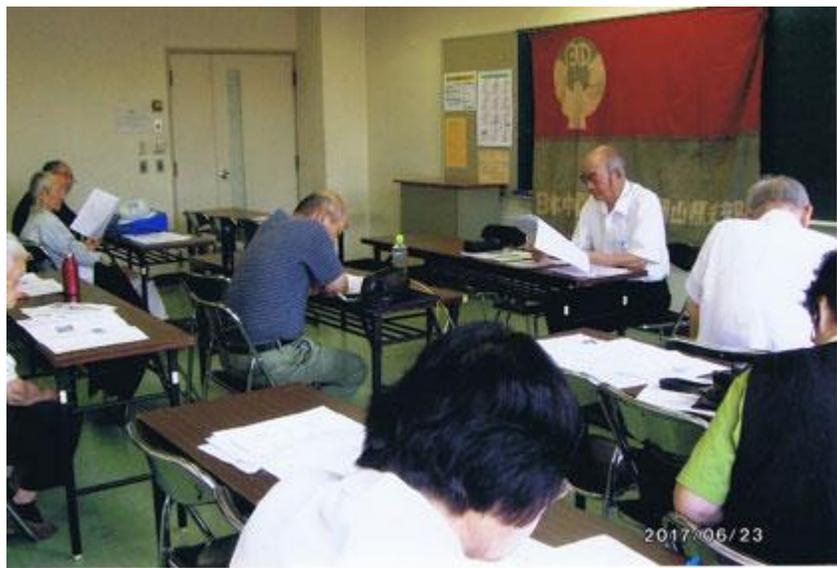
三井金属日比精錬所に強制連行され、あの戦争の終戦を待たずに命を落とした中国人25人の霊が、ここに眠っています。

今年10月に慰霊祭を行うと、岡山華僑華人総会を中心にその準備が進められています。

日中岡山支部・倉敷支部もともに参加しています。



観音院常光寺の鎮魂の鐘楼
2006年5月24日の慰霊祭の日に撮影



第10回「孟子」を読む 告子篇（下）

弓田 盛樹

孟子は正しい道を説きながらも、現実社会から受け入れられることはありませんでした。士官を望みながらも栄達できず、世間と自身の理想との対立に打ちひしがれながら最終的には郷里に隠退することになります。

しかし、孟子は、「大志を果たすべき人にはかならず苦難の時期があるものだ」と固く信じていました。その根拠として、「舜は農夫より身を起こした。傅説(ふえつ)は工事現場から見いだされた。膠鬲(こうかく)は魚売りから身を起こした。管仲は囚われの罪人だった。孫叔敖(そんしゅくごう)は海辺に隠れ住んでいた。百里奚(ひゃくりけい)は賤しい身分だった」と古代の聖賢の出自を述べます。そこから、「天が人に大任を果たさせるときは、必ずまずはその人の心を苦しめるものだ。それは、人の心を揺さぶることで忍耐力を増強し、これまでできなかったこともできるようにさせるため」と力強い言葉を語ります。

人は失敗を経験してこそ改めることができ、悩み苦しんでこそ発奮することができます。それは、国家も同様です。孟子は、「国の中に法に従った公平な家臣、君主を諫める側近がおらず、敵国も外患もないような国は必ず滅亡する」と断言します。

有名な「憂患に生きて安楽に死す」はここに出処があります。憂患＝苦しいつらい時こそが希望にあふれ進歩発展の道であり、安楽なときほど実は最も危険ということです。このことを個人に当てはめると、自己責任論に帰結してしまいます。孟子の先覚性はこの道德基準を国家に当てはめている点にあります。

現在の安倍政権を見ていると、台頭する中国経済に適切な手を打てず、自分に都合のいい側近ばかりを配置し、憲法を捻じ曲げることばかりをし、国家の内に閉じこもっています。こうした人たちが、学校教育に道德を導入したり、論語を愛唱しているのですから驚いたものです。

また、そもそも古代の聖賢の出自が本当に孟子の言う通りなのかというと非常に疑わしく、証明することは不可能です。しかし、人は誰もが聖人になれるという孟子の自覚そのものが尊いのであって、孟子が孔子から引き継いだ思想なのです。

「ありのままの中国を知ろう」 中国を知る講演会」に参加して

大西先生のお話は、多方面から中国を語られ、もった時間がほしいくらいでした。

まず日本人がもっている中国ぐらいは悪い面だけを強調する日本政府・マスコミによつてつくられ「外」から日本をみると「異常」であり、こういう異常な国は世界でも珍しいこと……。

私たち日中友好をめざすものはこのことの自覚が必要なのですね。ありのままの中国を知るためにこういう講演会で学習し、日中友好の確信」をもちたいと思いました。

「目からウロコ」 だった話

民族問題、中国では少数民族にも全人代に代表を送る「ワク」をちゃんと保障している。日本ではアイヌ族に国会議員の「ワク」を保障していない。

南沙諸島問題、中国だけが自由勝手に埋め立てをしているように宣伝されているが、ベトナム・フィリピンも埋め立てをやっている。そもそも南沙、西沙諸島は1930年代、



日本が占領して、日本の一部とされていた台湾の高雄市に編入されていたもの。だから今も最大の島「太平島」には台湾の軍隊が駐留していること。
経済面からいえば中国には資本家と、労働者・農民が「存在」する資本主義国であり、その発展の歩みは日本より40年おくらせて同じ過

程をたどっている。社会主義」をめざそうとすればいろいろな問題、矛盾が生じてきている。

中国には「相続税」がない。農民は死亡によって農地を国に返すのだから「相続税100%」を出しているとの見方もできるが。現在、相続税導入をめぐる「天金持ち」資本家階級と、庶民「労働者・農民が階級闘争をやっている」という指摘もなるほど。

今後、政府がどう指導力を発揮するのだろうか。

中国の実態をもっと知りたい

中国はいろんな面で巨大な規模の国であるがゆえに困難・矛盾も大きいだろうと思える。大西先生が指摘された

大西広教授の講演

「今の中国をどうみるか」を聞いて

現代中国ウオッチャーを自認する私が、大西教授の講演を聞いて既読のこと新しい知識を得たことをまず述べたい。既知に知っていた知識としては、新中国建国以来の少数民族問題の対応と政商会議への参加（日本の入管の差別行政）帰化を迫るやり方との比較）のすばらしさ。中国人民

盧溝橋事件80周年

街頭宣伝のご案内

1937年7月7日、北京郊外の盧溝橋付近で夜間演習中の日本軍が実弾射撃音を聞いて、中国軍に攻撃されたとし、戦闘になったのが盧溝橋事件です。

日本軍は、これを機に中国全土に侵略戦争をおしすすめ、中国の民衆に言語に絶する苦しみを与えました。そして、1945年8月の敗戦までに、中国人をはじめアジアの人々約2000万人、日本人310万人の命を失いました。今年はこの盧溝橋事件から80周年の節目の年です。岡山支部は、日中不再戦は

憲法9条を生かす道」との立場で日中友好運動を進めていきます。つきましては、下記の日程で行います街頭宣伝にぜひご参加くださいますようお願いいたします。

とき 7月7日(金)

11:00 ~ 12:00

ところ:

天満屋アリスの広場前

行動内容

今日の新聞折り込みの

ビラの配布

連絡先: 小林軍治

(日中岡山支部事務局長)

090-8240-2001

1945年8月9日の原子爆弾に思う」の新華日報の記事である。大変いい勉強になった。あともう少し聞きたかったのは現代中国の福祉・医療制度である。国民皆保険制度がないために貧困層が福祉・医療の恩恵が受けられていない現状を教えてください。

青木康嘉

次回の新聞送付作業は7月11日(火)午後1時半から民主会館2階で行います。前回お手伝いくださった方です。

川野川井林田和
宇小川河小曾竹内内
坪井